

「おかえり。」

私の家では、うさぎを育てています。いつも私が学校から帰ってくると、うさぎのラブが、私の顔を見て、

「おかえり。」

と言ってくれるのです。だから、私はいつも学校から帰ってくるのを楽しみにしています。学校から帰ってくるだけが楽しみではありません。私が、夜ごはんを食べる前に、ラブにえさをやります。えさをやると、

「ありがとう。」

と心の中で言ってくれるのです。いつもあまりいわれないこの言葉をいわれると、とてもうれしくなります。だから、ラブとの少しの会話でたのしさやうれしさが感じられています。

ある日、私が家のそうじをしていました。まずは、自分の部屋のそうじをしました。自分の部屋は、とてもきかないので、そうじに時間がかかりました。次は何のそうじをしようかなと思った時、ラブがゲージをかじりはじめたので、ゲージをあけると、ラブがゲージの外に出ました。そして私の、足元をぐるぐるまわりはじめました。ラブは、何を言っているのかなと思ったので、ずっとラブを見つめっていると、ラブは、

「ぼくのゲージもそうじして。」

と言っていると私は思いました。だからラブのゲージをお父さんと、そうじをすると、とてもうれしそうな顔をしていたので、とてもうれしかったです。

ラブとの心の会話は、何もしゃべれないはずのラブが、心の中で私としゃべってくれていると思うと、私とラブは、何かでむすばれているんだなあと感じてもうれしくなりました。心の会話は、いつもは、はずかしくてしゃべれない言葉が、心の中では、しゃべれるからおたがいの気持ちに分かるから、心の会話は、とくべつな会話なんだなあと思いました。だから、会話は、ふつうの会話でも、心の会話は、ふつうの会話とはちがう事が分かりました。このことを学校での生活で、自分の事だけを考えるのではなく、友達気持ちも考えていきたいとあらためて感じました。

ラブは、私との会話をどう感じているのかなあと思っています。私は、会話の時間をとてもうれしく思っています。ラブとの会話は、私のたから物の一つです。